

が す や い そ ま る      り や く ね ん ぶ  
**糟谷磯丸の略年譜**

年号	西暦	年齢	内容	
めい わ 明和 元	1764	1	みかわのくにあつ みごおり い ら こ ざき      つうしやうしん のじやう 三河国渥美郡伊良湖崎に生まれる。通称新之丞。	
かん せい 寛政 10	1798	35	かい ふく      みやうじん      はだかまい 大病の母の快復を祈って伊良湖明神に裸参りを3年間続ける。	
	12	1800	37	さん けい にん      よ 参詣人から和歌のすばらしさを教えられ、歌を詠むことに夢 中になる。かめ やま      こおり ぶ ぎやう      もと つね かげ 亀山在住の郡奉行井本常蔭に和歌の指導を受け、 「磯丸」の名を与えられる。
ぶん か 文化 元	1804	41	よし だ      おり え 吉田(現在の豊橋)の女流歌人、林織江に見出される。	
	8	1811	48	おり え      ともな      しば やま だい な      ごん も ち とよ 林織江に伴われて京都の芝山大納言持豊に会い門人になり、 ていりやう 「貞良」の名をいただく。
	13	1816	53	母が亡くなる。
ぶん せい 文政 7	1824	61	あり ま 有馬(現在の兵庫県)へ旅をする。はじめて江戸に行く。	
てん ぽう 天保 3	1832	69	伊良湖村が大火事になる。磯丸の家だけ焼け残る。	
	4	1833	70	3月10日、わた なべ か ざん 田原城内で渡辺華山と会う。
	5	1834	71	よ      かん しゃ      とおとうみ 和歌を詠んだ磯丸に感謝して遠江(現在の静岡県)の人々が みやうじん      いし どうろう 伊良湖明神へ石灯籠を建てる運動が起こる。
	14	1843	80	との きま      つく で      いおり 田原の殿様に招かれ月見をする。三河作手の人々が磯丸の庵 い ら こ      ほうらい じ さん      か ひ と五十五神社を建てる。鳳来寺山内に磯丸の歌碑が建つ。
こう か 弘化 2	1845	82	おわり      とこなめ      こさぶろう      とうぞう 尾張の焼物師常滑小三郎、磯丸の陶像を作る。	
か えい 嘉永 元	1848	85	5月3日死去。	
	3	1850	れいじん      ほこら 磯丸壺神の祠が屋敷内に安置される。	



わたなべ か ざん      い ら こ みやうじん      じん じゃ  
渡辺華山がスケッチした伊良湖明神(神社)  
「参海雑誌」(複製) 原本は天保4年(1833) 田原市博物館蔵

**「神様になった海辺の歌人」糟谷磯丸**

平成26年(2014)7月10日

編集◎ 糟谷磯丸翁生誕250年記念事業実行委員会

発行◎ 糟谷磯丸翁生誕250年記念事業実行委員会

〒441-3624

愛知県田原市伊良湖町渡川 321 番地

挿絵◎ 松浦邦治 ほか

制作◎ 株式会社シンプル